



みんな笑顔の給食タイム



2016年4月25日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会  
 (英文名略称・HANDS)  
 本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11  
 TEL & FAX:045-500-9151  
 E-mail: hands-mindanao@nifty.com  
<http://homepage3.nifty.com/hands/>  
 郵便振替口座 00210-5-72693  
 (加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会

## 先住民族の自立を支えるための教育支援 - 支援のリレーを -

### 一 志ある青年を育てることで広がる自立支援 一

2月の終わり、元奨学生ジミーから近況報告が届きました。国立MSUのIT関連学科を卒業後、教師をめざして復学し、教職単位を取って国家試験に合格、公立小学校の教師になったという話は、奨学生仲間から聞いていましたが、本人からの連絡はほぼ4年ぶりです。

CMIPエリアのキアミ地区の子どもたちは、吊り橋(当団体がFY基金で支援)ができたあと、全員、キナム・バランガイの中心部にあるこの公立小学校やハイスクールに通っていること、学校では、雨期にぬかるむ校庭整備の責任者として、父母や地域の人から寄付を集めていることなど、教師として、ビラーンの子どもの教育に関われる喜びが伝わるメールでした。

自分の給与で、姪や甥、計4名のカレッジ生の学費支援までできるのは、HANDS奨学金のおかげと感謝の言葉もありました。

また、HANDS奨学生同窓会として、夏休み中の5月に、CMIP新設校バンリ小学校を訪ねて、学用品を届け、学校整備作業も手伝うという企画(84号P2)も、このジミーの発案であることが分かりました。

CMIPエリアの場合、年平均3名ほどが私たちの支援でカレッジを卒業します。専門教育を受けた青年たちが、教師・農業技術者・町役場職員として、子どもや住民のために働くことで、私たちの「自立を支える活動」もすそ野を広げることができます。

### 一 HANDSの歴史20年より長い会員の教育支援歴 一

私たちHANDSの活動は今年、21年目に入りますが、2002年、山口県のNPO法人「少数民族里親の会」(略称FOT)の活動終了に伴い、当団体に参加されたブラカール支援会員(現12名)、また、3年前の「チボリ国際里親の会」(略称JOFPA)の活動終了により、当会

に加わったチボリの子ども支援会員(現170名)の中には、故藤原輝夫会長がミンダナオ島レイクセブ町のチボリの里子支援を始めた1980年から参加されている方もいます。最長で35年も先住民族の教育支援を続けてこられたこととなります。

昨年度も、「30年支援したので、これで最後に」という通信欄でのご挨拶をいただいた方が数名いました。

中退などの事例にも多く出会いながら、辛抱強く支援を続けて下さり、ジミーのような青年が数多く育ってきました。特定の子どもではなく、教育機会拡大のための全体支援や給食支援で支えて下さる方もいます。

おかげで少なくともレイクセブ町は、先住民族が70%を占める町としては、異例の教育普及率が高い地域になっています。卒業生の中には、町の役場職員や教師になっており、私たちが町の周縁部ダグマ山系で推進するアグロフォレストリー事業のパートナーとして、村の環境や収入向上事業にかかわっています。

### 一 今しばらく、支援のリレーを！ 一

長くご支援の皆様には感謝しかありません。前号で紹介の4P's政策のもと、制度上は最貧層の18歳以下の子どもの教育や医療には補助が出るようになりました。干ばつ被害が深刻なこの時期、蓄えのない大多数の山の先住民族は、この補助金で、子どもたちを飢えから守り、家族も糊口をしのごうできています。

干ばつで食糧不足の時はもちろん、給食支援は、遠くの学校まで通う山の子どもたちの何よりの動機づけになります。一人が「長く支援」は難しい時代になりました。給食支援や教育全体支援の形(月額500円、年6000円)で、1年間の支援をたくさんの方に繋げていただけたらと考えています。「支援のリレー」への参加をお願いいたします。(山崎)